

平成21年度病虫害発生予報第1号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

病虫害防除の主な留意点

- ・ この冬（12月～2月）から春先の気温が、全国的に高く推移したことから、農作物の生育が早くなっていると同時に、病虫害の越冬量が多くなり、病虫害の発生が早まったり、多くなったりすると予想されます。
- ・ 春の病虫害の防除は、今年の病虫害防除を効率的かつ効果的に行うためにも重要なので、各作物ごとに適切な防除を実施してください。
- ・ また、薬剤防除を実施する場合には、病虫害が薬剤への抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- ・ なお、天候の1ヶ月予報では、平均気温は、関東・北陸以西で平年並か高くなると予想されています。降水量及び日照時間は全国的に平年並と予想されています。
- ・ 都道府県の発生予察情報に注意し、地域ごとの防除要否を見極めて、適切な病虫害防除を行ってください。

用語の解説

1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

- ・ 甲信：山梨県、長野県
 - ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
 - ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 - ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 - ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 - ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 - ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
- 北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
- 南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

【水稲】

- ・ 縞葉枯病の発生は北九州の一部で「多い」、北関東の一部で「やや多い」と予想されます。これらの地域では、本病の病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生が多いので、育苗箱施用薬剤等による適切な防除を行い、移植後に発病株が認められた場合には早期に抜き取り、処分してください。
- ・ 早期栽培では、本田に放置したままの補植用取置き苗は、いもち病の伝染源となるので、早期除去を徹底してください。罹病苗が見られた場合には早期に処分してください。
- ・ 普通期栽培では、播種・育苗作業にあたる地域では、健全種子の使用と、種子消毒を徹底し、健全苗の確保に心掛けてください。
- ・ また、育苗箱施用薬剤を使用する場合は、いもち病で一部の薬剤に対する耐性菌が認められているので、都道府県から発表されている耐性菌の分布情報を参考にして、薬剤を選定してください。
- ・ なお、本田において除草剤を使用する際は、単一の剤を連続使用せず地域ごとに実態に合わせた薬剤を組合せ、使用に当たっては、止水期間を1週間程度とる、止水中の薬剤の流出を防止するなどの措置を講じてください。

【麦】

- ・ 本年は暖冬傾向から、生育が平年より早く、出穂が早まっているので、ほ場観察を十分に行い、生育状況を正確に把握して適期防除に努めてください。
- ・ なお、赤かび病の発生は全国的（北海道を除く）に「平年並以下」と予想されます。本病菌は開花期の穂に感染しやすく、この時期に降雨が続き平気気温が高い（18～20℃）と多発します。
- ・ 赤かび病の防除は、適期を逃さずに行うことが重要であり、防除適期に降雨が多い場合であっても、短い晴れ間を利用するなど、確実に防除を実施する必要があります。
- ・ なお、麦の種類毎の最初の防除を実施する時期は以下のとおりです。
 - ① 小麦：開花を始めた時期から開花期までの間
 - ② 二条大麦：穂揃い期の10日後頃
 - ③ 六条大麦：開花を始めた時期から開花期までの間
- ・ さらに、地域の気象情報、過去の被害状況等に加え、普及指導センター、農協、病害虫防除所等からの各種情報や、品種の赤かび病抵抗性を考慮して、必要に応じて追加の防除を行ってください。

【果樹】

(かんきつ)

- ・ かいよう病の発生は「平年並以下」となっています。また、今後の発生も「平年並以下」と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。特に、本病は降雨や強風により発生が助長されるので、強風雨が予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ そうか病の発生は「平年並以下」となっています。また、今後の発生も「平年並以下」と予想されます。なお、既に発生が見られる園地では、伝染防止のため、発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。
- ・ ミカンハダニの発生は南関東及び南九州の一部で「やや多い」と予想されるほかは、「平年並以下」の発生と予想されます。なお、今後、降雨が少なく、高温条件となった場合には、多発することが懸念されるため、発生初期での防除を実施してください。

(りんご)

- ・ 腐らん病の発生は甲信の一部で「やや多い」と予想されます。病患部の削り取り及び罹病枝の剪除を行い、措置部には薬剤を塗布してください。削り取った病斑や剪除した枝は、土中に埋めるなど適切に処分してください。また、雪害による損傷部、剪定痕等にも薬剤を塗布してください。
- ・ リンゴハダニの発生は「平年並以下」と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

(なし)

- ・ 黒星病の発生は北九州の一部で「やや多い」と予想されます。開花前及び落花期における薬剤散布は確実に実施するとともに、発病葉、発病果及び発病した新梢の除去に努めてください。また、降雨が続くと感染を助長するので、散布間隔が開き過ぎないように降雨の合間に薬剤を散布してください。
- ・ ハダニ類の発生は南東北の一部で「やや多い」と予想されるほかは、「平年並以下」と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

(もも)

- ・ モモハモグリガの発生は甲信の一部で「やや多い」と予想されるほかは、「平年並以下」と予想されます。産卵後から若齢幼虫期をとらえた薬剤散布が有効なので、病害虫防除所等が発表する情報を参考に実施してください。

【茶】

- ・ カンザワハダニの発生は九州の一部で「多い」又は「やや多い」、南関東の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ 既に一番茶の摘採期に入った地域も見られます。薬剤散布を実施する場合には、農薬使用基準を遵守し、実施してください。

- ・ ハマキガ類やカンザワハダニ、クワシロカイガラムシ等の防除適期は、一番茶摘採後になります。ほ場観察を行い発生を把握するとともに、病虫害防除所等が発表する情報を参考に、適期防除に努めて下さい。

【野菜】

(施設栽培)

- ・ 4月下旬となり、気温の上昇とともに、野外でも病虫害の活動が始まっています。
- ・ 冬期間に閉鎖環境であった施設栽培では、今後、栽培管理上、施設を開放する機会が増えるため、施設内への病虫害の侵入に注意が必要です。施設の開口部に防虫ネット等を設置し、アザミウマ類、コナジラミ類等のウイルス病を媒介する微小な害虫の侵入防止対策を行ってください。
- ・ また、これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草を定期的に除草するとともに、ウイルス罹病株の早期抜取りに努めてください。さらに、栽培終了後には、これらの害虫（保毒虫）の野外への飛び出しを防ぐために、施設を密封して、施設の蒸し込み処理等を行い、生存虫を死滅させてから作物残さ等を搬出してください。
- ・ 病害は、過湿な状態が発生の原因となるので、過度なかん水の回避、循環扇の設置、換気等により過湿を防止してください。
- ・ また、罹病葉及び罹病果は伝染源となるので、施設外に除去し、土中に埋める等、確実に処分してください。
- ・ 施設栽培における主な病虫害の発生予想は、次表のとおりです。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病虫害及び対象地域

作物名／病虫害名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
トマト		
疫病	四国	九州
灰色かび病	関東、東海、四国、九州	—
葉かび病	北関東、東海	南関東、近畿、九州
きゅうり		
褐斑病	北関東、四国、九州	—
アザミウマ類	東海、北九州	関東、南九州
いちご		
灰色かび病	南関東、東海、南九州	南東北、北関東、北九州
うどんこ病	南東北、南関東、九州	北関東
ハダニ類	関東、東海、四国、南九州	北九州

(露地栽培)

- ・ 露地栽培においては、今後、天候推移に注意し、病虫害の早期発見及び早期防除に努めてください。

- ・ また、発病株は、早期に抜き取ってほ場から除去し、病原体の拡散を防止してください。
- ・ 露地栽培における主な病害虫の発生予想は、次表のとおりです。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

作物名／病害虫名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
キャベツ		
コナガ	沖縄	――
たまねぎ		
白色疫病	中国	――
べと病	――	中国、四国
ねぎ		
べと病	北九州	――

【花き類】

(きく)

- ・ 白さび病の発生は北関東の一部で「多い」、南九州の一部で「やや多い」、ハダニ類の発生は、ハダニ類の発生は北関東及び北九州の一部で「多い」、南九州の一部で「やや多い」、アザミウマ類の発生の九州の一部で「やや多い」と予想されます。ほ場内でのこれら病害虫の発生状況を観察し、適時適切な防除に努めてください。

【その他】

前回（平成 21 年 2 月 19 日）以降、各都道府県が発表している発生予察情報は以下のとおりです。

- ・ 注意報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
2月20日	福岡	茶	カンザワハダニ
2月25日	宮崎	茶	カンザワハダニ
2月27日	佐賀	いちご	ハダニ類
3月1日	大分	ねぎ	べと病
3月2日	沖縄	キャベツ	コナガ
3月5日	愛知	トマト、なす、きゅうり、いちご	灰色かび病
3月5日	高知	きゅうり	つる枯病

3月13日	岐阜	野菜類（施設）	灰色かび病
3月16日	長崎	いちご、トマト	灰色かび病
3月18日	岩手	水稲	ばか苗病
3月18日	山口	たまねぎ	白色疫病
3月19日	愛知	きゅうり、なす	ミナミキイロアザミウマ
3月23日	兵庫	たまねぎ	べと病
3月24日	宮崎	トマト、いちご	灰色かび病
3月25日	鳥取	大麦	網斑病
4月1日	長崎	水稲	縞葉枯病
4月2日	島根	たまねぎ	べと病
4月17日	佐賀	たまねぎ	べと病
4月21日	愛媛	うめ、もも、びわ、キウイフルーツ、なし等	果樹カメムシ類

・ 特殊報

発表月日	県名	作物名	病虫害名
3月2日	沖縄	きゅうり	キュウリ黄化えそ病（MYSV）
3月2日	沖縄	ピーマン	チャノキイロアザミウマ
3月2日	愛知	かき	ヤサイゾウムシ
3月10日	東京	ほうれんそう	ハコベハナバエ
3月10日	和歌山	トルコぎきょう	トルコギキョウえそ輪紋病（IYSV）
3月11日	千葉	ブルーベリー	ブルーベリー赤色輪点病（BRRV）
3月16日	広島	キャベツ	トビイロシワアリ
3月16日	広島	水稲	ミナミアオカメムシ
3月26日	神奈川	とうもろこし（未成熟）	カタベニデオキスイ
3月26日	神奈川	オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ
4月8日	東京	うめ	プラムポックスウイルス（仮称）による病害
4月13日	愛知	なす	ナスすすかび病
4月21日	茨城	にら、ねぎ	ニラえそ条斑病、ネギえそ条斑病（IYSV）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班大岡，城島

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>